

在ボストン日本国総領事館主催
**ニューイングランド大学生
第三回日本語コンテスト**



The Third Annual
Japanese Language Contest for
New England College Students

Organized by
The Consulate General of Japan in Boston

2013. 5. 11

ニューイングランド大学生日本語コンテストも今年で三回目を実施できる運びとなり光栄です。当コンテストは、エッセイ部門とスピーチ部門の二部門からなり、ニューイングランド地域で日本語を学習する大学生を対象としています。日本語学習者の皆様に日頃の学習成果の発表の場を提供するとともに、日本についてより一層知って頂くことを目的としています。

今回は、ニューイングランド地域にある大学からエッセイ部門は二十七作品、スピーチ部門には十八作品もの参加を得ました。エッセイ部門では、「私にとつて日本とは」「日本の魅力」をテーマにしたところ、音楽や漫画、日本での幼少時代の思い出など、自らの経験等に基づいた様々な視点から、日本の魅力や日本について述べられた甲乙つけがたい作品が集まりました。スピーチ部門では、自分の日本での体験、日本でのお土産の意味、日本人の高齢者への思いやりのことなど、様々な内容の原稿が集まり、こちらも原稿を見た限りでは甲乙つけがたく、スピーチが楽しみでなりません。

この中から選ばれたエッセイ部門入賞作品を表彰するとともに、本コンテストについて日本語教育関係者や一般の方々にも知って頂くために本小冊子を作成しました。この小冊子が日本語学習者の刺激となり、次回日本語コンテストにより多くの参加者が得られることを期待したいと思います。

最後になりましたが、ご指導くださった先生方、審査員の方々、賞品をご提供下さいました企業・団体の方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

平成二十五年五月

在ボストン日本国総領事

武藤 顕

第3回日本語コンテストプログラム

平成 25 年 5 月 11 日（土） 1 時より

1. 開会の辞

2. 挨拶 在ボストン日本国総領事館首席領事 渡邊信之

3. 審査員紹介

4. スピーチ 中級の部

- | | | | |
|-----|------------------|---------------------|-------------|
| (1) | Hee Jin Han | Boston University | 祖母が教えてくれたこと |
| (2) | Juhyun Justin Yi | Boston College | 小さな日本 |
| (3) | Yoonah Park | Brandeis University | 私のおじいちゃん |
| (4) | Ray Kim | UMass Amherst | 同じ空の下で |
| (5) | Mi Hui Wong | Bates College | 日本の魅力 |
| (6) | Winni Ni | Smith College | 桜の精神 |

5. スピーチ 上級の部

- | | | | |
|-----|----------------|--------------------------|--------------------|
| (1) | Ji Qing Wu | Wellesley College | 金沢限定、石川特産、
日本名物 |
| (2) | Amy Stockton | Harvard University | 日本から習った思想 |
| (3) | Hyang Gi Lim | UMass Amherst | 漢字について思うこと |
| (4) | Chi Pham | Mount Holyoke
College | 高齢者への思いやり |
| (5) | Min Hyeong Ki | Boston College | ボタン |
| (6) | Serena Forrest | UMass Amherst | 超え難い壁 |

6. エッセイ部門入賞者への賞状・副賞授与

7. スピーチ部門審査結果発表

在ボストン日本国総領事館首席領事 渡邊信之

8. 入賞者への賞状・副賞授与

9. 審査講評

10. レセプション

審査員 エッセイ部門

作田 貴志

住井 亨介

セイヤー 桂子

森田 喜代子

渡邊 眞紀

渡邊 信之

審査員 スピーチ部門

井熊 康之

グラハム 智子

田井中雅人

森田 喜代子

渡邊 信之

織田 頼（予選）

岸部 護（予選）

小久保 武（予選）

中川 豊巳（予選）

ホームマン 道子（予選）

協力頂いた企業・団体

出場者の大学の日本語教師（自校学生以外を審査）

ボストン日本語学校校長

ボストン日本語学校校長

マサチューセッツ大学ボストン校元日本語講師

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ（読売新聞記者）

ハーバード大学元日本語講師

在ボストン日本国総領事館首席領事

タフツ大学日本学科日本語講師

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ（朝日新聞記者）

昭和ボストン日本語プログラム担当

ノーブル・アンド・グリーノー・スクール日本語教師

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ（朝日新聞記者）

在ボストン日本国総領事館首席領事

国際交流基金ロサンゼルス日本文化センター専任講師

タフツ大学日本学科日本語講師

ボストン日本協会理事

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ（産経新聞記者）

講談社アメリカ上席副社長

講談社アメリカ、 香老舗 松栄堂、
ボストン・レッドソックス
独立行政法人 国際交流基金（ジャパンファウンデーション）

（全五十音順）

エッセイ部門入賞者

Award Winners

中級レベル Intermediate Division

一位 1st Place

Suhyoun Yu Wellesley College

二位 2nd Place

Xiao Shao UMass Amherst

三位 3rd Place

Chaoqun Wang Brandeis University

上級レベル Advanced Division

一位 1st Place

Jennifer Shin Boston College

二位 2nd Place

Devin Recchio UMass Amherst

三位 3rd Place

Kim Lacey Bowdoin College

中級レベル 一位

私の思い出の故郷

ユウ ソウヨウン

私の前には近づけない程の火がもえている。幼稚園の先生は長い棒で火の中の何かを刺しながら私達の名前を呼んでいらっしやる。

「ソウちゃん、できたよ。ほら、熱いから気をつけるのよ。」

先生は下手な字で「そう」と書いたホイルに包まれたサツマイモを私にゆっくりと渡して下さった。

この時私は四歳でここは東京のミドリ幼稚園の運動場だ。

その日畑で掘ったサツマイモを幼稚園の皆とキャンプファイアーで焼いて食べている所だ。日はとくに暮れて外は真っ暗だというのに、ここだけはまるで別世界のように明るくて暖かい。

これが私の子供の頃の最初の思い出だ。

韓国人の私が小さい頃日本に住むことができたのは外交官である父のお陰だ。幼い頃から両親について様々な国に住んできた私が日本に初めて着いた時は三歳の頃だ。後で行

った国では言葉や習慣が違って初めはいつも苦勞をした。

自分の国の韓国ですら適応するのにかなり時間がかった。

だが日本は違った。まだ幼かったせいか、私は回りに自然に溶け込みいつの間にか日本語をしゃべるようになり友達が出来ていた。そして醤油の味のだんごと冷たい素麺が大好きになっていた。母の手を握って行つた賑やかな夏祭りやその時の涼しい風の匂いを今も思い出す。

残念ながら五歳で他の国に引越して以来再び日本へ戻る機会は無かった。言葉はだんだん忘れていき日本での思い出はそれが夢だったかと思われるほど離れていくように感じた。私にはそれが嫌だった。韓国生まれでも一歳の時国を離れ、十歳まで韓国語もよく話せなかった私は韓国を故郷とは思えない。そうかと言って二、三年しか住んだことがない日本を含む他の国を故郷と言うのもおかしい。だから戻るべき所がない私にとって思い出とは失いたくない大切なものだ。そしてそれが初めてできたのが日本だ。せめて記憶の中では故郷のように戻る場所があつてほしい。だから私は日本を私の思い出の故郷と呼びたい。

中級レベル 二位

感謝の心

シヤオ ショー

日本は、桜や温泉の国として有名だが、日本の魅力はまだこれらだけではありません。人と人との間のつながりや、礼儀正しさなども日本社会の魅力です。私にとつて、日本の一番の魅力は、感謝することの大切さをいつも伝えていることです。

私がまだ小学生の時、父の仕事の関係で日本の小学校に二年通いました。一番記憶に残った行事は、感謝の会と小学校の卒業式でした。感謝の会というのは、お世話になった先生に、感謝状や花束を渡す行事のことです。私達のグループは、音楽の先生に感謝状を書くことに決めました。私達みんな先生の授業はもちろん言うまでもなく、先生のお人柄も大好きだったのです。感謝状を書くことで、私は先生のやさしさや思いやりを日々の一つ一つの小さいことから理解するようになりました。私は、先生に対する感謝の気持ちを一生懸命感謝状に書き込みました。感謝の会で感

謝状や花束を渡した時、先生も私も涙が溢れ出しました。その瞬間、私は、感謝することの美しさや大切さを心で感じることができました。

小学校の卒業式も強く印象に残った行事の一つです。卒業式では、先生や親に、友達や学校に感謝の言葉を送ったりして、未来の夢に向かって歩き出します。まだ幼い私達にとつて、小学校は、一つの大切な旅の終わりと、一つの大切な旅の始まりです。その終わりと始まりを感謝の言葉や気持ちで迎えました。きつとこんなにも私の記憶に残ったのは、その感謝の気持ちが強かったのだと思います。

感謝するということは、今までのことを振り返り、大切なことを胸の奥にしっかりと刻んでおくことです。少しの間だけ足を留め、心が体について来られる時間を与えることです。感謝することができる心は、人にとつて最も大切なことだと思います。いつも感謝することの大切さを伝えていく社会も、暖かい社会を作っていくことができます。その魅力はいつまでも輝いていることでしょう。

中級レベル 三位

日本の魅力

チャオチュン ワン

夏休みに、上海の日本の会社でインターンをした。日本の本社から訪ねて来る社員はいつも挨拶に、お菓子を持って来た。長崎のカステラとか、京都の水羊羹とか、箱根の温泉饅頭などだった。お菓子は挨拶としてだけではなく、文化も表す素晴らしいものだと思う。日本の文化的な要素はお菓子の包装にもうまく統合されて、視覚的な楽しさにもなる。

お菓子の一つは書道のフォントで印刷されて、包みは金色の葉を持つ和紙で、リボンは色のついた銅線だった。それを見た瞬間、私は日本がどんなに美しい国か想像できた。菓子の箱一つをもこんなに素敵にしようとする国なら、他のものをもっと素敵だろうと。

私にとって日本の魅力とは、物を作る時の細やかな心、精神性と自分の文化への誇りを感じることである。それを日本人の国民意識と呼びたい。日本人は生活の細部をとっても大切にす。和菓子の包装は豪華であるだけでなく、箱

の内側も開きやすいとかリサイクルできるデザインなど人々に便利なように工夫されている。西洋よりむしろ独自の文化的な要素を使うのは立派なことだと思う。「日本の美しさを出したい」というメッセージが見える。自己の文化をどんなに誇りに思っていることだろうか？

私はこの精神を中国に伝えたい、美術専攻の学生として中国のお菓やその包装を変えていきたい。五千年の文明を持つ中国にも、おいしいお菓子がたくさんある。が、日本と違うのはお菓子の包みである。中国人はお菓子はただ美味しければいい、見た目とか包みは大したことではないと思っている。私はそうは思わない。日本のお菓子が素晴らしいのは、その美味しさの上に、手の込んだ包装だ。中国のお菓子は美味しさ以外に何も無い。

お菓子一つにも見る日本人の精神性は、私たちが学べるものだ。中国の菓を知っている外国人はあまりいない。私は菓子の包みや見た目を日本のように立派にすれば、世界にこの美味しさをもたらせると信じている。

上級レベル 一位

電車の中の日本

ジェニファー シン

パオーン。午前八時三十三分、黄緑の車両が入って来た。立ち並んでいた人達は無言の約束でもしたのか、一歩後ろに下がった。そして電車から乗客が次々と降りるや否や、お互いに競争する様にドドツと中に流れ込んだ。もう一歩も踏み込む隙間もない電車に入ろうとする人、一人でも多くの乗客を乗せようと押し込む係員の姿。

この慌しい朝の光景は、日本で一年間交換留学した私の心に一番残った記憶の一つである。留学当初、無数の路線と乗換の方法、様々な出入口、漢字の駅名が非常に心配だった。しかしここには日本文化と社会の縮図があった。一見は韓国の電車の外観や、居眠りしているアメリカの乗客と変わらない。だが何かが違った。

例えば、車内で携帯で通話をしたり、隣の人と大声で喋っている人を見るのは珍しい。最初は余りにも静かな雰囲気慌てたが、実はこれが公共の場所で他人に迷惑をかけない為の礼儀ではないかと気づいた。また、電車の時刻表は

三十秒単位に分かれ、その通り正確に運行されていた。同じ路線でも普通・快速・特急と列車が細分化され、その中から選び乗る事にも妙味があった。東京の中心部から郊外まで繋がる色々な路線に乗れば、それぞれ固有の魅力と風情がある日本の各地にも回れた。車内にあるつり革も私の様に背の低い乗客の為に高低差があった。迷路の様に広い新宿と渋谷駅は、いつも人込みで混雑している。毎回迷子になつてしまう私に駅員が地図を広げながら親切に道を教えてくれた。この様に、些細な事までも日本人の繊細で暖かい気配りが感じられた。

未だに日本の出退勤時間帯の電車と新宿駅の雑踏を思い出すと息苦しく疲れてしまう。しかし電車を通して、複雑で忙しい生活の中でこれらの日本人の意識と配慮が今まで日本を先進国として築き上げ、維持して来た原動力ではないかと思つた。活気に満ちる電車にまた乗れば、今回はどこでどの様な日本を発見できるのかと想像するだけで楽しくなる。

上級レベル 二位

ぬぐいきれない不安

デヴィン レッキオ

日本に留学する事になった時、自分は日米間の文化の違いを経験して、違う人になって帰国するだろうと思った。その違いとは茶道や祭りといった、目で見てすぐに分かるものである。しかし、実際に留学してみると予想できなかった社会的な違いに気が付いた。

ある金曜日の夜、電車で帰ろうとした時だった。かなり遅かったので車内では空席と酔っ払っている人だけが歓迎してくれた。疲れていた私はありがたく一番近くの席に腰を下ろした。しばらくして向こう側にいる三人の若い男性に視線がいった。三人はお互いにもたれかかって眠っていた。誰も気にしなかった。気にしている自分の方がおかしく思え、やはりここはアメリカではないと実感した。日本では皆がゲイだと思われる恐怖を感じずに生きていると思つて、それを羨ましくさえ思った。しかしその時、私は裏にある意味を読み取れていなかった。

即ち、日本人は性という人間の本质について無知だという事に気付いていなかったのだ。アメリカのゲイは大騒ぎして自分の存在を認めさせた一方、それによって多くの人に恐れ嫌われるようになった。その結果、人々はゲイだと思われる事を怖がり、自然に振舞えなくなつたといえよう。しかし、日本にはそんな歴史がないので、電車の三人のように気軽に行動できる。その反面、ゲイは異常だと社会的に思われている為、結局、なかなか思うように暮らせないという現状がまだ続いている。

留学していた時はそれでも一人で日本人の家族と暮らしていたので問題はなかった。しかし、これから日本で働きたいと思っているから、いずれ必ず日本と私の本質の間に何らかの妥協が必要になってくる。何故なら私は男性と付き合っていて、その大切な人をアメリカに残して日本に行く訳にはいかないからだ。しかし、法律の問題はともかく、どうやってその事を日本人に説明するか、そもそもどうやって日本で男二人で暮らすのか、不安でたまらない

上級レベル

三位

私の心を支える日本

キム レイシー

子供の頃の私は、日本という国が今の私にこんなに特別な存在になることを、想像できただろうか。私は韓国生まれで約十年間そこで過ごしたわけだが、日本は近くて遠い国だった。今でも日韓の過去にあった歴史的な出来事から、反日感情を持っている人も少なくないと思う。しかし、韓国に住んでいる間は、局外に立って考える機会がなかったことにアメリカに来て気づいた。だから、過去に執着しとらわれて生きることには何の意味もないと思うようになった。

地味とも呼べる私の人生が徐々に変わってきたのは約三年前のことだ。突然日本に興味を持ち始め、日本のすべてが好きになった。いつのまにか日本が私の日常の一部となった。中でも特に音楽は、昨年ロシアでの生活を支えてくれた。ひどく弱気で孤独を感じるたびに、GReeeeNやAKB48の音楽が私の心の支えになった。「誰かのために」という曲が震災後の日本を元気づけたように、「夕日を見ているか」は私に勇気をくれた。「今を受け入れること、進むこ

と教えてくれる。それなりの今日が終わり、すべてリセットする夜が来るよ。」という歌詞は、この上なく胸に響き、暗闇にいた私に希望を持たせてくれた。そして、留学を終え、とうとう夏休みに日本に行く日が訪れた。ロシアでも大地震についてのニュースを聞いていたが、実際に震災復興のため被災地に見舞い金を送る人々やコンサートをする有名人、そして何よりも、逆境と戦って頑張って生きている日本人の姿を見られたこの夏休みは、ただの旅行ではなく、深い意味を持ち、大切なことを教えてくれた。

このように、私にとっての日本とは私が生きていくために必要な存在だ。大学卒業を控えた今でも、日本で感じた人々の優しさや強靱な精神力は私の心の中に残っている。将来、外交官として日本など様々な国々とアメリカの相互の信頼関係を支える国際人になりたいと思っている。そのためには日本で学んだことを忘れないでいたい。

在ボストン日本国総領事館主催

第四回日本語コンテストのお知らせ

次回日本語コンテストは、今年度同様に、スピーチ部門、エッセイ部門に分けて行う予定です。詳しくは追って在ボストン日本国総領事館ホームページ等でご案内いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

日にち… 二〇一四年四月ごろ

場所… グレーターボストン地域

部門… エッセイコンテスト

中級・上級

スピーチコンテスト

中級・上級

対象… ニューイングランドの大学に在籍している大学生（大学院生も含む）

お問い合わせ先…

在ボストン日本国総領事館 大津賀

infocul@bz.mofa.go.jp